

犬・猫などペットによる咬傷^{こうしょう}について

医療法人 小金井中央病院
外科部長 藤原 岳人

ペットを飼っている方は多いと思いますが、「咬まれてしまった」「引っ掻かれてしまった」などということも少なくありません。咬傷の8割以上は犬によるもので、猫が約1割となっています。ただし、細く鋭い爪や牙を持つ猫の傷は重症化しやすく、蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、膿瘍形成などを引き起こします。



<初期対応>

犬や猫などに咬まれたり、引っかかれて皮膚に傷ができた場合、まず水道水など多量の流水で直ちに創部を洗浄し、すぐ医療機関に受診しましょう。消毒液は痛み刺激が強いばかりでなく正常組織の壊死を招くため使用してはいけません。

傷から出血がある場合は洗浄後にきれいなガーゼやタオル等で創部を覆い、軽く圧迫して受診しましょう。



＜咬傷などが原因で起こる感染症について＞

1. 狂犬病

狂犬病ウイルスに感染した動物に咬まれる事によって感染します。発症した場合、ほぼ100%死亡する恐ろしい病気です。

日本では1957年以降は発症の報告はありませんが、近隣の外国（特に中国、フィリピン、ミャンマー、インドなど）では未だに多く、海外旅行先での咬傷には十分気を付けてください。



2. 猫ひっかき病

バルトネラ菌に感染した犬や猫に引っかかれたり咬まれたりした場合に創部から感染します。感染すると2週間ほどの潜伏期間の後、発熱・リンパ節腫脹などの症状が出現します。抗菌薬治療が有効です。

ノミを介して犬・猫が感染するため、定期的なノミ予防を行ってください。



3. 破傷風

土壌に生息する破傷風菌による感染症で、咬傷でも考慮する必要があります。

日本では1968年に予防接種法によってジフテリア・百日咳・破傷風混合ワクチン

（DTP）の定期予防接種が開始されていますが、それ以前の方は免疫がなくワクチン（破傷風トキソイド）や抗破傷風免疫ヒトグロブリンの投与を行います。小児期に予防接種を受けていても10年以上追加ワクチンを受けていない場合や創部の汚染具合によってはワクチンなどを行います。



CT検査について

医療法人 小金井中央病院
診療放射線技師 佐久間 由佳

CTって何？

CTとは、Computed Tomography(コンピュータ断層撮影法)の略です。CTでは放射線の一種であるX線を使います。健康診断でお馴染みの、胸のレントゲン撮影で使う放射線と同じものです。

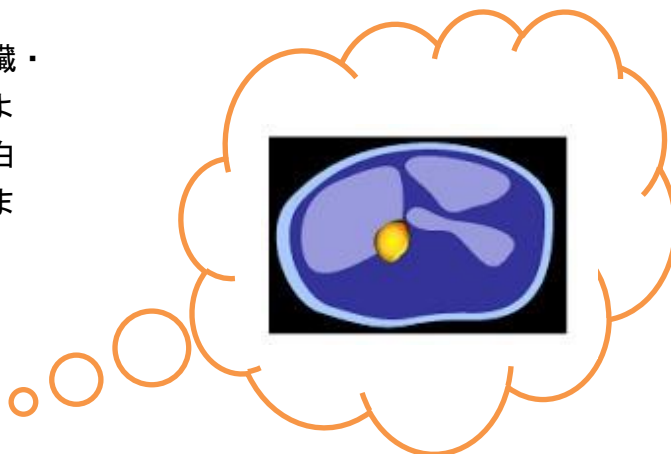
X線は、肺や脂肪の様に密度が低い所は透過し易く、骨や金属の様に密度が高い所は透過しにくい性質があり、この差を画像にしています。CTは、その応用で色々な方向からX線を当て、コンピュータ処理することで、**身体の断面画像**を作成します。処理方法を変えると、3D画像を作ることもできます。



CT検査で何がわかるの？

CT検査では、身体の輪切り画像が得られるので、身体の中の構造を詳しく調べることができます。CT検査は、**脳出血、肺炎、肺癌、胸水、腸閉塞、腹水、胆石、尿路結石、骨折**に強いと言われています。

また、**造影剤**という薬を使えば、**血液の流れ**や、**肝臓・胆のう・膵臓・腎臓**などの**臓器**がきれいに見えますようになります。**腫瘍**などがあれば白く染まるので発見されやすくなります。



検査前の注意点

・ 食事

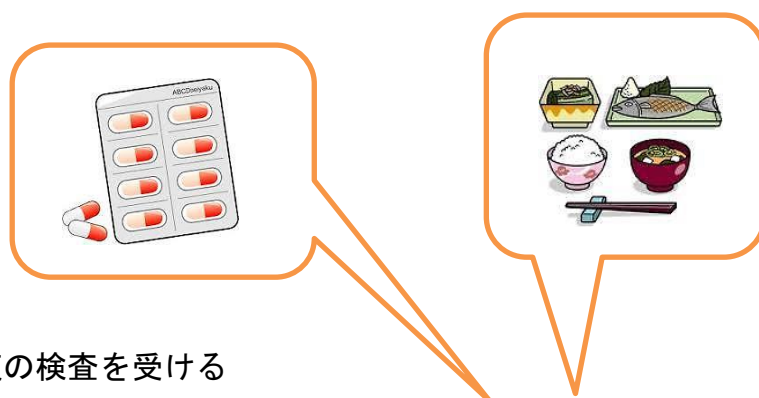
造影剤を使った検査やお腹の検査を受ける方は、検査前の食事は摂らないで下さい。水やお茶は飲んでも構いません(牛乳等の乳製品、コーヒーは除く)。特に指示の無い方は、いつも通り食事をお摂り下さい。

・ 服装

検査部位により、ネックレス・ピアスなどの**金属類**は画像に写るため、外して頂きます。また、**金属のついた下着や衣服**を着ている場合は、検査着に着替えてから検査します。

・ 服薬

血圧の薬は少量の水でいつも通りお飲みください。他の薬は医師にご確認下さい。



どのようにして検査を受けるの？

「動かない」「息を止める」などの細かいところは検査時にスタッフから指示があるので安心して下さい。頭や首の検査の場合は寝台に仰向けになり、手をお腹の上に置いた状態で撮影します。胸やお腹の検査の場合、両腕を上げたまま撮影します。

検査時間としては10分程になります。

以上がCT検査の説明です。ご不明な点は、お近くのスタッフにお尋ねください。

